

NPO 法人 白十字在宅ボランティアの会 発行(2009.8.25 発行人 加藤敦子)

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町2-7 ディアコート砂土原204

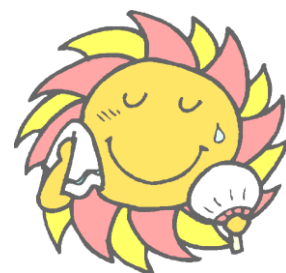
【TEL/FAX】03-5935-7708 【E-Mail】volunt-hakujuji@coast.ocn.ne.jp 【HP】<http://www.hakujuji-net.com/>

夏本番！！青い空と白い雲、蝉の声にゲリラ豪雨…。地震も多く、何だか気分はスッキリしない夏ですね。会報も、イベントに押されてなかなか発行できず…でも、これでスッキリ！！

聞き書きボランティアを取り上げて頂いた新聞記事のおかげで、この夏は沢山の出会いがあり、忙しい夏になりました。今号は「聞き書き」をめぐる活動を中心に、ご紹介します。

この夏…

「聞き書き」がアツい！！



NPO 発足以降、定期的に養成講座を開き、地道に活動を続けてきた聞き書きボランティアの活動を、朝日新聞で取り上げて下さいました。

記事は、3ページをご覧ください。講座前日の6月22日に新聞に載ったことで、問い合わせが殺到し、こんなに電話が鳴ったことはNPO 始まって以来、初めてのことでした。急遽、講師の小田豊二先生に連絡し、追加開催の日程調整をし、会場を押さえ、まさに「嬉しい悲鳴」とはこの事だな～と実感させて頂きました。

【学生のためのボランティア講座

聞かせて下さい、あなたの人生。～「聞き書き」というボランティア～

上記のタイトルで、6月23日(火)と7月8日(水)の18:30～公開講座を開催しました。昨年も“養成講座”ではない「聞き書き講座」を1回開催しました。それは、聞き書きを多くの人に知って欲しかったから。そして今回は、特に“学生”に知って欲しかったので、「学生のための」を頭に付けて開催しました。大学生にターゲットを置いて、夏休み前の、尚且つ試験に掛からない日にち、を設定しましたが、思ったように学生が集められず、それでも43名の学生さんと78名の一般の方が参加して下さいました。

講座はいつものように、笑いの渦の中で進んで行きました。「聞き書き」を初めて聞いた方のためにちょっと解説を加えると、聞き書きとは…「聞いて、書く」それだけ。でも、「聞く」ことで語り手さんは自分の人生を振り返ったり、幸せな出来事や頑張ってきたことを思い出して、生き生きして来ます。「書く」ことで、その人が教えてくれた昔の知恵や技術を、後世に伝えることが出来ます。そして「聞き手」であるボランティア自身も、色々な知識を得ることが出来ます。それは「お年寄りがひとり亡くなると、



↑ 満員御礼の会場風景

地域にひとつ図書館がなくなる」と言われるほど、それについては、柳田邦男さんも以下のように言っています。「一人の人間の人生の内実は文庫蔵一つに相当するというとらえ方に、私は全面的に共感する。だが、せっかくの貴重な文庫蔵が、毎年百万単位で失われていくのが現実の姿だ。これからの日本人に語り伝えるべきものは、実は身近にいる父母や祖父母の人生の記録ではないか。高校生や大学生が『聞き書き』ボランティア活動をするのを奨めたい。（柳田邦男・文藝春秋巻頭エッセイより抜粋）」

「お雑煮の話って地域性が出るんだよね～、あなたのところはお餅は四角？それとも丸？」小田先生が会場に問いかけて行きます。参加者の一人が「うちにあんこの入った丸餅に味噌の汁です」と言うと、会場から「ええ～っ?!」と驚きの声。(この方は香川県ご出身の方でした)また、「姉さんかぶりって知ってる？」と運悪く(?!)小田先生の目の前に座ってしまった参加者には、手拭いが渡され、姉さんかぶりの実演をお願い。(写真参照)見守る皆さんも「こうじゃなかったっけ？」と記憶の糸を手繰り寄せ…。

「聞く」ことで忘れていた記憶がよみがえり、語り手が生き生きしてくる。まるで水面深く沈んでいた記憶が浮かんで島となり、その島が幾つも浮かび、やがて地続きとなり大陸となる…小田先生言うところの「記憶の島」が浮かび上がるのを体感しました。



当日のアンケートから、学生さんの感想を二つ、ご紹介します。
「自分の一番身近にいるおじいちゃん、おばあちゃんの話をきちんと聞いていなかったなと気付かされました。夏に帰省した時、是非話をしてもらおうと思いました。」

「姉さんかぶり」は…
確かこうだったかしら？

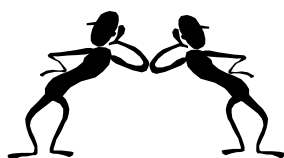
「私はボランティアで老人ホームに行くので、何か利用者さんとの付き合いの方法の一つになれば良いかな、と参加しました。聞き書きを知り、漠然と良いなとは思っていましたが、小田先生の話聞き、実際にやろうと決めました。それは今日、技術だけでなく、その面白さも伝えて下さったお陰だと思えます。これを自分がまずやってみて、自分が居る団体の皆に伝えたいと強く思いました。」

また来年も、より学生を巻き込んだ「聞き書き」企画をやりたい!!と強く感じ、新しい企画がもくもくと湧き上がって止まらない、会場の熱気から、逆にそんな刺激を頂いた公開講座でした。

【聞き書きフォローアップ講座〈実践編〉】

さて、今後の「聞き書き」ですが、7月18日から第5期生となる「聞き書きボランティア養成講座」が始まっています。こちらは8月29日に修了の予定で、今まさに実習真っ只中です。こちらにも、先に行われた6/23・7/8の講座を聞いて、興味を持って下さった方々が多数参加されています。

しかし、養成講座の日程に都合がつかなかった方や、夏休みなら聞き書きに時間を割けるんだけど…といった学生さんもあるだろう、と考え、9月29日に6/23・7/8に参加された方を対象にした「フォローアップ講座」を開催します。先の公開講座と併せて、新宿区の助成金事業として採択されました。このフォローアップ講座は「実践編」として行うものですので、受講資格は「事前に聞き書き作品を提出できること」としてあります。受講生の作品を教材に、もう一步突っ込んだ「聞く」技術・「書く」技術をご指導頂く予定です。



喜び悲しみ一冊に

お年寄りから人生聞き書き

だれにもあるとっておきの話や冒険談、悲しい思い出、喜び……。お年寄りに自身の人生を語ってもらい、冊子などの形に残す「聞き書き」活動をしているNPO「白十字在宅ボランティアの会」（新宿区）が、23日に入門講座を開く。「語り手は人生の意義をあらためて見だし、聞き手は経験や知恵を知る。ぜひ若い人に参加してほしい」と呼びかけている。

（星野哲）

あす新宿で入門講座



聞き書きで作った冊子をする菅野まさみさんと山越武司さん＝新宿区

話者も癒やされ

同会は、在宅のがん患者らを支える「白十字訪問看護ステーション」を母体に発足。07年4月から聞き書き活動を始めた。全国各地に活動が広がっていた02年、理事長の秋山正子さんが聞き書きのことを新聞で知り、秋田県に住む当時91歳の母親の聞き書きを

北海道の団体に依頼したことが一つのきっかけになった。最初に、聞き書き作家の小田豊二さんによる養成講座を開き、受講した中から8人がボランティアとして活動している。これまでに5人の聞き書きを冊子に残した。お年寄りは、看護師や地域

のケアマネジャーらから紹介されることが多い。最初は会の事務局が略歴を調べ、ボランティアの人と一緒に向うく。2回目以降はボランティアが一对一で話を聞く。月に2回ぐらい、長ければ半年ほど通うこともあるという。ボランティアの山越武司さん(77)は、妻をくし気落ちしているときに、講座に出会った。「語る側」を模擬体験して、妻との思い出を話す

ことで癒やされた。同じ話でも聞き手によって焦点の当てる方、書き方が異なる面白さを感じ、ボランティアを始めた。時代背景の下調べや、録音を字に起こす苦労もあるが、冊子になったときの相手の喜ぶ顔が忘れられないという。

NIT 東日本関東病院看護

長の菅野まさみさん(88)は患者の死に直面する中で、「この世に何かを残すお手伝いができないか」とボランティアに参加した。ただ「聞く」だけでなく、特に独り暮らしのお年寄りには心のケアになると感じている。

入門講座は23日午後6時半から「ルーテル市ヶ谷センター」（新宿区市谷砂土原町）で。講師は小田さん。一般千円、学生500円。定員80人。申し込みは「聞き書き講座希望」の旨と氏名、電話番号を明記し、ファクスで白十字在宅ボランティアの会(03・59335・7708)へ。

【↑ 6月22日の朝日新聞東京版に掲載された記事。】



次回の「聞き書きボランティア養成講座」を、年内に開講する予定で日程調整を進めております。受講希望の方は、事務局までご一報下さい。優先的にご案内を差し上げます。

養成講座は全3回。土曜日の午後にご当NPO事務局を会場に行う予定です。

今年も開催しました！！・2009 シンポジウム報告

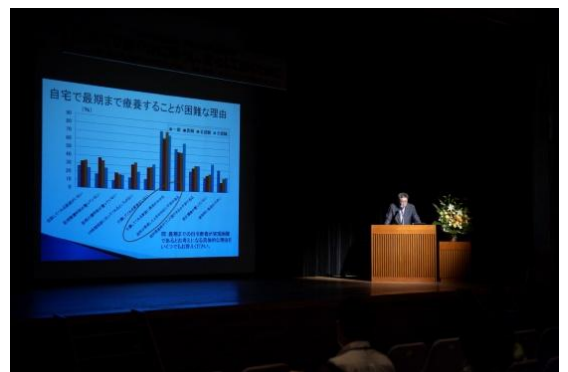
「この町で健やかに暮らし、安心して逝くために」

昨年、日本財団の助成を頂き、上記のタイトルに副題を「在宅ホスピスが実現できる地域づくりをめざして」と付け、新宿区内3カ所の区民ホールでシンポジウムを開催しました。基調講演では在宅ホスピス医から最近の動向を講演していただき、それに引き続いて新宿区内で活動されている開業医や訪問看護師、ケアマネジャーやデイサービススタッフなど医療・介護の担い手からの実践報告、そこに必ず、ご自宅での看取りを経験されたご家族にも加わって頂きました。

医療職限定、福祉職限定、の勉強会などはあっても、職種を限定することなく、同じ地域で活動する仲間として、一人の人をサポートするチームとして、一緒に壇上に並び、意見を交換する事は、実はあまり行われていないのが現状です。

昨年はシンポジウムに先立って、終末期の利用者さんに関わる上での不安について、在宅サービスの事業所にアンケート調査を行いました。その結果からは、福祉職に対する終末期ケアやホスピスケアの教育の機会の乏しさ、医療と福祉のネットワークが構築出来ていないこと、これによる孤立感が、不安や困惑の大部分を占めていることが分かりました。また、会場で回収したアンケートからは「最期をどう、どこで過ごすか」についての関心の高さも伺えました。

そのような会場の声を聞き、「来年も続けて行きたい」とシンポジウムが終了した直後から考えていましたが、“地域づくり”を目的に含むのであれば尚更、継続していく必要がある、と考えています。その思いを理解して下さった勇美記念財団から助成金を頂いて、2009年7月10日、新宿区牛込筆筈区民ホールにて、4回目にあたるシンポジウムを開催しました。



【基調講演は昨年に続き、松本武敏先生】

基調講演・提言・ディスカッションという流れは、昨年と同様でしたが、今年のパネラーは、自宅で奥様を看取られた三宅さんを中心に、三宅さんが病院から自宅に帰る橋渡しをした、退院後に訪問診療するクリニックのソーシャルワーカー、在宅療養に円滑に移行できるよう必要な医療機器の設置や、薬剤の配達・セットをした薬剤師、それらの人と連携しながら安心して暮らせるためのケアをした訪問看護師が、それぞれがどう関わったのかを発表しました。

休憩を挟んでのパネルディスカッションでは、送り出す側の病院勤務の看護師さんやソーシャルワーカーさんに意見を求め、「帰りたい」気持ちを、そこに関わる人々がどのように協力体制を作ることで叶えられるのか、意見交換を行いました。



【ディスカッションの様子】

会場には168名の方が足を運んで下さり、今回は特に看

護学生さんが多く参加して下さいました。学生さんの感想には「在宅ホスピスについて、実際の場面はイメージしづらいものだったので、実際にそれを選択された方、その周りの医療関係者の様子を知ることが出来てよかった。」「実際にご家族を亡くされた方の話を聞かせて頂いたのは初めてだったので、貴重な話を聞けて良かった。」というものが多くありました。

また、現職のケアマネジャーからは、「医療的な知識がないと、足手まといになってしまうのではないかと思ひ、終末期の方を受け持つのを敬遠してしまう」との告白もありました。

広報しんじゅくに載せた告知記事を見て来て下さった方も、昨年より多かったようで、そのような一般市民の方からは「在宅での看取りが可能であることを学ばせて頂きました。在宅介護は、家族にとっては大変なことも多いと思ひますが、大切な時を24時間ともに過ごせることは、かけがえのないことだと思います。そちらを選べる人でありたいと感じました。」との感想が寄せられました。



【客席：昨年を上回る参加者】

今年は実行委員を募り、パネラーとの打ち合わせやホールとの打ち合わせなどに加わって頂きました。当日の運営にも、二人のボランティアさんに舞台・客席とロビーをそれぞれ割り振り、リーダーとしてボランティアのまとめ役をお願いしました。慣れないことに戸惑われた面もあったと思ひますが、当日は、パネラーの発表データが壊れるなど、不測の事態が幾つも重なり、事務局はそちらにかかりきりになってしまったため、本当に助かりました。

当日、設営や受付を手伝ってくれたボランティアの皆さんも、有難うございました。

閉会の時に「次回は10月にお会いしましょう」とアナウンスをしましたが、新宿区からの委託事業として10月24日(土)に、シンポジウムを開催することになりました。テーマはこれまでと変わりませんが、次回は認知症についての講演が入る予定です。詳細はホームページなどで順次お知らせして参ります。

斯在宅医療助成 善美記念財団助成事業

この町で健やかに暮らし、安心して逝くために

あなたの大切な人が末期がんになったら…
「家に帰りたい」と言うその人を、どうやって迎えますか？地域には、あなたをサポートしてくれる沢山の手があります。自宅での看取りを支えた人たちから、本当の「在宅での看取り」をお話し頂きます。

■ 日時：2009年7月10日(金)
開場 15:30 開演 16:00 (19:00 終了予定)

■ 会場：牛込筆筈区民ホール (新宿区筆筈町 15 番地)

□ 基調講演
・ 松本 武敏 (いしかわ内科副院長・熊本在宅ドクターネット学術担当)

□ 提言
・ 藤本 紹代 (フジモト新宿クリニック ソーシャルワーカー)
・ 奥坂 喜美子 (白十字訪問看護ステーション 看護師)
・ 泉 千里 (胸ダイヤライフ 在宅医療推進部 部長)
・ 在宅で看取りをされたご家族

□ パネルディスカッション【講演者・提言者とフロアの皆様】
・ コーディネーター 秋山 正子
(白十字訪問看護ステーション統括所長・白十字在宅ボランティアの会理事長)

■ 参加費：500円

■ 会場までのアクセス
(地下鉄) 大江戸線「牛込神楽坂」A1 出口より徒歩0分
東西線「神楽坂」2番出口より徒歩10分
(都バス) 飯62系統 小滝橋車庫前～都営飯田橋駅または
橋63系統 小滝橋車庫前～新橋駅「牛込北町」下車

■ 主催：NPO 法人白十字在宅ボランティアの会
■ 後援：新宿区・胸ケアーズ白十字訪問看護ステーション

申込・問合せ先 NPO 法人白十字在宅ボランティアの会
TEL・FAX：03-5935-7708
E-Mail：volunt-hakuiji@coast.ocnr.ne.jp

今後の予定&実行委員募集!!

秋冬にかけて、新しい講座の開講を予定しております。来年以降も継続して行っていきたいと考えている講座ですので、準備や振り返りを一緒に進めて下さる方を大募集します!!また、10月末締め切りの助成金申請もしたいと考えているので、そちらに関してモアドバイスを頂ける方を探しています。



在宅ホスピスケア・ボランティア養成講座

「最期まで家で生活したい人や、そのご家族が、安心して療養・介護できるよう、現存のサービスでは足りない部分をサポートできるボランティアを養成する」ことを目的に、全4回の講座を2クール開講する計画で、ゆめ応援ファンド助成金を、既に頂いています。

年内に1クールは開講したいので、9月早々に実行委員会を開きたいと考えています。助成金申請時に大まかに内容や講師を挙げていますが、具体的に講座の構成を考えるに当たり、介護する家族が何を求めているのか、などを、是非、経験者の意見として教えて頂ける方、加わっていただけませんか?



来年の「聞き書き」に向けて考えていること

学生に聞き書きを!との思いを、来年も何らかの形で実践したいと考えています。例えば…



- ✍ 神楽坂の町の変遷を語ってくれる方を募集して、学生に聞き書きをしてもらい、一冊にまとめる。お宅に訪問させてもらう際に、聞き書きボランティアが同行する。
(または、戦時中の話など、話題を決めることで一冊にまとめやすくなり、記録として残せる)
- ✍ 学生と共に、区内の通所・入所の福祉施設などを訪ね、お手玉やおはじき、けん玉など昔の遊びをしながら、回想法のように聞き書きをして、あそびの記録としてまとめる。
(あそびの道具でなく、家事の道具や昔の写真などでも、話し出しのきっかけはいろいろ…)
- ✍ 思い出の写真を1枚選んでもらい、それについて語ってもらう。それをまとめると町や生活の歴史が分かる写真集になる。会場を決めて語り手・聞き手に集まってもらい、1対1や1対2で聞き書きを行う。

大学生や高校生に、聞き書きを「知る」だけでなく、「体験する」機会を作りたいと思っています。いずれにせよ、体験の前には、知ってもらうための講座(講演)も必要になりますね。聞くことや書くことの中に、ボランティア自身の楽しみや喜びもあることを感じて欲しいと考えています。そのためには、どんな取り組みがよいか、皆様のご意見を頂きたいです。

会員継続とボランティア登録のお願い

今回の会報は、会員のみならず、これまで当会の活動にご参加下さった方や、ご寄付を頂いた方にも送らせて頂きました。当 NPO も3年目に入り、聞き書きボランティアの養成やシンポジウムの開催など、軌道に乗ってきた活動がある反面、新しい事業も行っていきたいと考えています。

つきましては、当会の趣旨や活動に賛同頂ける方に、是非、会員になって頂きたいこと、既に入会頂いている方については、今後も会員を継続して頂けますようお願い申し上げます。

入会・継続頂ける方は、同封の振込用紙をご利用ください。

年会費：正会員	2,000 円
賛助会員（個人）—□	3,000 円
（団体）—□	30,000 円

入会金：正会員・賛助会員ともに 2,000 円

郵便振替口座 00150-9-503047

加入者名 特定非営利活動法人 白十字在宅ボランティアの会



ボランティア登録票を同封します。

白十字訪問看護ステーションからだけでなく、新宿区内の介護事業所のケアマネジャーさんからも、おしゃべり相手や、散歩や趣味の外出に付き添って欲しい、とボランティア依頼が入ることが増えて来ました。

そこで、ボランティア活動が出来る方、当会に登録をして頂けませんか？活動可能な曜日や時間、地域などを教えて頂きたいことと、どのような活動をお願いできるか、を率直にお聞かせ下さい。

【記入例】

②当会に登録して、どんな活動がしたいですか？

おしゃべり相手や、一緒に唄を歌うようなことは好き。介護の経験はないので、一人で歩けない人のお世話は出来ない。

③活動可能な曜日・時間・地域などを教えて下さい。

月・水・金以外の午後は空いている。10 時より前や、17 時より遅い時間は出掛けにくい。自宅から近くが良いが、電車 1 本で乗り換えずに行ける所なら、あまり遠くなければ可能。

今後の予定 (9月~12月)

※日程変更の可能性もあり、参加希望の方は確認のお電話をいただくと幸いです。

9月19日(土) 13:30 ~ 17:00 NPO事務所

ボランティア・サロン

「何か」手芸 or 工作をしましょう。手ぶらでお越し下さい。

*

9月29日(火) 18:15 ~ 21:00 東京ボランティア・市民活動センター会議室 C

聞き書きフォローアップ講座(実践編)

6/23・7/8の聞き書き公開講座に参加された方のための、一步進んだ実践講座。

*

10月24日(土) 午後の予定 牛込笹塚区民ホールを予定

シンポジウム「この町で健やかに暮らし、安心して逝くために」

パネラーなど詳細は調整中。

*

9月初旬・・・「在宅ホスピスケア・ボランティア養成講座」実行委員会 開催予定

*

10月末 ~ 12月末の間で・・・「在宅ホスピスケア・ボランティア養成講座」(全4回) 開講予定

*

10月末 ~ 12月末の間で・・・「聞き書きボランティア養成講座」(全3回) 開講予定

掲示板

連絡先が変わった方はご一報ください。

- 入会や受講申し込みに記載して下さった住所やメールアドレスが変更になっている方、ご連絡ください。
- ボランティア依頼のメールなどを送信させて頂いても良い方、また、現在送信されているが停止したい方も、ご一報ください。

実行委員・当日ボランティア募集中です。

- 上記「今後の予定」に挙げた講座等の、実行委員や、当日の運営をお手伝い頂ける方、事務局までご連絡ください。お待ちしております。

編集後記

会報の発行が滞っておりましたこと、お詫び申し上げます。

今号では、「聞き書き」をメインに取り上げましたが、私自身も「ハマった」一人です。在宅ホスピスケア・ボランティアの養成をしようと思ったのも、終末期の方のところに聞き書きに伺ったことで、ボランティアに何ができるか？ 悩み、迷っていた気持ちに変化が生じたからです。「聞く」ことの威力を、是非、皆さんにも知って頂きたいです。

来月、アクティビティインストラクターの養成セミナーに参加します。何かの形で還元できたら…と思っております。事務局 加藤敦子